

教育委員会では「高森に誇りを持ち、夢を抱き、元気の出る教育」をスローガンとした高森町新教育プランを策定。このプランの一貫として教育環境の整備を行っている。その中の教育の情報化については、まず平成24年度に全小中学校の普通教室に電子黒板とデジタル教科書(全教科)を整備。次年度以降、段階的にタブレットPC計360台を配備し生徒一人にタブレットPC1台で、日常的にICTを活用した授業に取り組める環境を実現。また町の情報通信基盤整備事業による光通信網の町内全戸への敷設でテレビ会議システムの常用が容易になり、小学校英語等での遠隔授業や教職員研修等で活用が進んでいる。さらに教育長をはじめとする教育委員会事務局、町内4校の校長及び担当者で構成する教育CIO会議を設置し、スピード感を持ち学校現場との連携を深めながら情報の収集や発信、教育の情報化を推進している。

課題1 「教育の質の向上」

取組による効果・成果

- ① ICT活用を契機にし、教職員の教育研究会を主体とした授業改善により確かな学力を育成
- ② 児童生徒のICT活用を推進する中で、情報活用能力や情報モラルの向上を図り、21世紀型スキルを身につけさせ、生きる力を底上げ

※実例

- ・電子黒板の活用によるわかりやすい課題提示
- ・タブレットPCによる、生徒の思考の可視化と意見の共有
- ・テレビ会議システム活用によるALTや外部講師の遠隔授業(小学校英語、総合的な学習の時間)

課題2 地域の活性化

取組による効果・成果

- ① コミュニティ・スクールを取組の核として、地域に最適化された教育を推進し、学校と家庭・地域との間の双方向のアクションにより地域を活性化
- ② 町の施策と連動したスピーディな学校改革により、教育に対する関心が高まり、保護者や町民の負託により教育活動が活性化



本取組は国や県の動向を捉えつつ、地域に最適化された教育内容を構築している。また「情報通信基盤整備」を町の重点施策として取り組む高森町の動きと連動性を高めている。さらに学校現場でマネジメントサイクルを確立し実働性を重視するとともに継続性を確保した。

取組のポイント

①独創性・先進性

小中学校全ての普通教室に電子黒板、タブレットPC360台等のICT機器を導入。文部科学省の「教育の情報化」ビジョンに基づき、学校改革の明確な方向性を打ち出しつつ、地域や現場が抱える課題解決にICTを効果的に活用している。

②継続性

学校の情報化を学校内の学力向上マネジメントサイクルに位置づけ、学校現場での継続性を確保している。また、新任教職員のICTリテラシーを高めるため、ICT支援員の活用や教育CIO体制下での教職員研修の活性化を図っている。

③横展開の可能性

学力向上についての良好なエビデンスが熊本県学力調査及び全国学力・学習状況調査から得られている。こうしたエビデンスを広く発信することで横展開が期待できる。

④効果的なICT利活用

電子黒板やタブレットPCなどICTを効果的に活用した授業改善が取組の中心にある。具体的には電子黒板による子どもにとって解りやすい課題提示、タブレットPCによる子どもの思考の可視化や共有、テレビ会議システムによる遠隔授業等。

⑤住民参加

町のICT政策の推進と併せ、コミュニティ・スクールによる地域とともにある学校づくりを進めている。地域の活性化から町全体の活性化へとつながっている。

⑥波及効果

平成24年度から約600名の児童生徒が本取組に基づく教育を受けており、児童生徒や教職員は学力、指導力を向上させる成功体験を獲得している。また、先進的な取組としてマスコミ関係者や視察希望者など1000人を超える人たちが町を訪れている。

⑦その他

高森町は人口減少社会の課題が現存している。そうした中で将来の高森町を担う児童生徒がふるさとを誇りに思う心情を培い、21世紀を生きる力を育むことが人づくりや町づくりとなり、地域創生へつながっていく。